講談「日向御前　国姫」を鑑賞して

松井　芽生

YouTube で講談「日向御前 国姫」の舞台映像を鑑賞しました。戦国時代から江戸時代初期という激しい時代を力強く生きた一人の女性の姿が、講談の語りと日本舞踊によってダイナミックに表現されていて、最後まで画面から目が離せなくなるほど引き込まれました。

主人公の国姫は、徳川家康や織田信長、本多忠勝といった歴史の授業で習うような有名な武将たちの血を引く名門の生まれだったそうです。肥前有馬家に嫁いだ彼女は、日向延岡や越前丸岡へと何度も領地が変わる大変な時期に夫を支えて、その後「日向御前」と呼ばれたと知りました。講談師の一龍斎貞弥さんの迫力ある語りを聞いていると、劇的な変化が激しい人生の中でも自分がすべきと思った行動を貫いた国姫のかっこよさがすごく伝わってきました。

特に印象に残ったのは、張り扇で台を叩く「パン！」という力強い音と、講談師の背後で舞う藤間京之助さんの日本舞踊です。言葉だけで場面を想像させる講談に鮮やかな舞が加わることで、国姫の悲しみや強い決意といった気持ちがよりリアルに伝わってきました。普段の生活の中では伝統芸能に触れる機会があまりないけれど、言葉と体の動きがぴったり合わさった演出は見ていて素直にすごいと感じたし、昔の表現技法が現代の私にも響くことに驚きました。

歴史の主役といえば戦う武将たちというイメージがあったけれど、陰で家を守り抜き、激動の世を導いた女性の存在も同じくらい重要だったのだと気づかされました。時代は全く違いますが、家族や大切なものを守るために自分の役割を全力で果たそうとする国姫の姿勢は、高校生の自分にとっても見習いたいと思うような憧れの姿です。

この動画を通して、歴史の裏にあるドラマの面白さと、日本の伝統芸能のかっこよさを知ることができました。画面一つでこんなクオリティの高い本格的な舞台が見られるのは本当に現代ならではのすごいことだと思うし、歴史が苦手な人や身の回りの人にもぜひ見てほしい作品だと思いました。